

第5回 神戸の都心の『未来の姿』検討委員会

平成27年6月18日

第5回 神戸の都心の『未来の姿』検討委員会

1 日時 平成27年6月18日(木) 午後1時29分～午後3時29分

2 場所 神戸市役所1号館 14階 大会議室

3 出席者

【委員(27人)】

(1) 地元組織代表

浅木隆子	小田俱義
久野茂樹	坂本罔昭
清水俊博	富岡良典
永田耕一	奈良山貴士
古川勝	松添雄介
三浦繁男(代理:木村)	

(2) 市民代表

玉田はる代(代理:森田)

(3) 交通事業者代表

奥野雅弘	平野剛
宮本一郎	村田豊喜
横山章	上杉雅彦(代理:中野)

(4) 経済団体代表

植村一仁	植村武雄
松田茂樹	

(5) 学識経験者

小谷通泰	加藤恵正
柚木和代	中尾正喜
長町志穂	牧紀男

(6) オブザーバー

国土交通省近畿地方整備局	松村知樹(代理:橋本)
兵庫県県土整備部	貝塚史利

4 議事

- ・パブリックコメントに向けた「神戸の都心の『未来の姿』（将来ビジョン）」の素案に対する意見交換

5 議事の内容 別紙のとおり

1. 開会

○三島都心三宮再整備担当部長

皆さん、こんにちは。本日は大変お忙しい中、ご参加いただきまして、ありがとうございます。

まず、開会に先立ちまして、委員の皆様にご確認させていただきたいと思っております。本日は報道機関より当委員会の会議風景を撮影したい旨、申し入れがございましたので、議事に入るまでということですが、許可したいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

○三島都心三宮再整備担当部長

ご異議がないようですので、撮影を許可したいと思います。報道機関の方は撮影をしていただいております。

それでは、ただいまより第5回の神戸の都心の『未来の姿』検討委員会を開催させていただきます。私は住宅都市局計画部の都心三宮再整備担当部長の三島と申します。事務局といたしまして進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これより、委員会を進めるに当たりまして、まずは、お手元の資料を確認させていただきます。次第と会議資料につきましては、事前に送付させていただきました。本日、資料をお忘れの方がいらっしゃいましたら申し出てください。また、本日の配付資料でございますが、まず、事前にお配りさせていただきました資料1、委員名簿でございますが、一部誤りがございましたので、修正したものを本日は新たにお配りさせていただいております。それと参考資料でございます。参考資料1といたしまして、3月に将来ビジョンの基本的な考え方を発表させていただきまして、市民意見を募集いたしております。その結果の報告書でございます。資料2でございますが、これにつきましては、これまでいただいたご意見と、今回のビジョンで発表させていただいております政策との関係を整理した資料でございます。参考資料3でございますが、今回ご議論いただく都心部の平面図になります。それと、本日、言い足りなかつたご意見をご記入いただく用紙を配付いたしております。資料に不足があれば、申し出ただけですでしょうか。

2. 委員の紹介

○三島都心三宮再整備担当部長

続きまして、本日ご出席いただいております委員の皆様方のご紹介は、資料1、委員名簿をごらんいただくことで省略させていただきます。

なお、今回から新たに委員になられた方のみご紹介をさせていただきます。阪急電鉄の奥野委員でございます。

○奥野委員

奥野でございます。どうぞ、よろしく申し上げます。

○三島都心三宮再整備担当部長

阪神電鉄の村田委員でございます。

○村田委員

村田でございます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

○三島都心三宮再整備担当部長

続きまして、欠席者の報告と代理で出席いただいている方をご紹介します。

まず、欠席者でございますが、久利委員、曹委員、岩佐委員、小浦委員、末包委員、関根委員がご欠席でございます。また、三浦委員につきましては木村様が代理で出席いただいております。

○木村委員

木村でございます。

○三島都心三宮再整備担当部長

玉田委員の代理といたしまして、森田様にご出席いただいております。

○森田委員

森田でございます。

○三島都心三宮再整備担当部長

上杉委員の代理で中野様にご出席いただいております。

○中野委員

中野でございます。よろしくお願い申し上げます。

○三島都心三宮再整備担当部長

また、オブザーバーといたしまして、国土交通省近畿地方整備局より、橋本様に出席いただいております。

○橋本

橋本です。よろしく申し上げます。

○三島都心三宮再整備担当部長

兵庫県県土整備部より、貝塚様にご出席いただいております。

○貝塚局長

貝塚でございます。よろしく申し上げます。

○三島都心三宮再整備担当部長

兵庫県警察本部からカタニ様にご出席いただいております。

○柏谷

柏谷でございます。よろしく申し上げます。

○三島都心三宮再整備担当部長

報道機関の撮影はここまでで終了といたします。

ここからは、加藤会長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○加藤会長

皆さん、お忙しいところ、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。それでは、時間も限られておりますので、早速、会議をスタートしたいと思います。

3. 議事

パブリックコメントに向けた「神戸の都心の『未来の姿』 (将来ビジョン)」の素案に対する意見交換

○会長

きょうのテーマは、お手元の次第に書いてありますけれども、議事、パブリックコメントに向けた「神戸の都心の『未来の姿』(将来ビジョン)」の素案に対する意見交換ということで、事務局のほうで準備いただきました、パブリックコメント用の冊子に關しまして、皆さんのほうから、ご意見を伺うというのが趣旨でございます。これから事務局のほうから説明をしていただきますけれども、後ほど、忌憚のないところで、皆さんのご意見いただければと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

そうしましたら、事務局のほうからご説明いただけますでしょうか。

○都心三宮再整備担当課長

私は、都心三宮再整備担当課長の若林でございます。よろしくお願いいたします。では、座って、ご説明させていただきます。

○会長

どうぞ。

○都心三宮再整備担当課長

今、会長のほうからございましたとおり、本日は、議事次第の2のところにありますとおり、パブリックコメントに向けた「神戸の都心の『未来の姿』(将来ビジョン)」の素案に対するご意見を頂戴する場ということでお願いしたいと思います。幾つか、資料をご用意させていただいておりますので、その資料について、ご説明をさせていただき、その最後にきょうご議論いただく資料3になりますが、「神戸の都心の『未来の姿』(将来ビジョン)」パブリックコメントの素案について、ご説明をさせていただくという順にさせていただきます。

では、まず資料2です。前回、第4回の検討委員会を振り返らせていただきたいという趣旨で要旨を資料としてつけさせていただいております。大きく3点、議論いただいたと思います。論点の一つ目としては神戸らしい眺望景観を守るためのルールづくりについて、論点2といたしまして都心居住のあり方について、論点3といたしまして都心内の回遊性向上に重心を置いた重点的な交通体系の再構築についてと、こういったことについて、ご

議論いただいたと思います。

振り返らせていただきますと、論点1の神戸らしい眺望景観を守るためのルールづくりについて、数点だけご紹介させていただきますと、この資料2の下から三つ目のポツで言いますと、建物の高さ規制よりも、町なかでの人目線での景観を守ることが必要ではないかと。ページをめくっていただきますと、その上部のところですが、神戸の都心の景観には歴史があり、海、山が近いという神戸らしい地勢、魅力を高めるべきだと。さらに、その次のところでは、建物の高さ規制は、眺望ポイントからの高さ規制だけでなく、ゾーンによる規制が必要ではないか。ゾーンで高さがそろえば、中景景観の形成・向上にもつながるのではないかと。このようなご意見を頂戴いたしました。ほかにもたくさん頂戴しています。その点につきましては割愛をさせていただきますが、この資料のとおりでございます。

論点2の都心居住のあり方についてですけれども、これも幾つかございますが、上から五つ目のところでは、都心居住によって人口がふえることは重要、街のにぎわいを創出するため、やはり、住民たちが街を使いこなすという、これは市民も含めてというご意見かと思いますが、そういった取り組みが必要と。そこからまた、さらに五つほど下がっていただくと、経済活動と都心居住のエリア分けは必要ではないか。エリアごとに規制と誘導を使い分けた上で、各エリアの特色をつくり出していくべきと、このようなご意見。その他にもたくさんございます。

論点3でございます。都心内の回遊性向上に重心を置いた交通体系の再構築という点ですが、ページ2-3になります。例えば、上から三つ目なんかでは、3層ネットワークも必要であるが、基本的には地上レベルでの回遊性の向上を検討すべき。そこから、五つほど下に下がりますと、都心部への車の乗り入れを規制する場合は荷さばきも考慮して、また、例えば、時間帯というのも限定すべきではないかとか。下から三つ目、公共交通を使いたいと思わせるような乗り物のブランド化など、回遊したいと思われる仕掛け、工夫が必要。一番下ですが、乗りかえや料金のシームレス化、そういった抵抗を少なくしていく、こういったことが有効であろうと。このようなご意見を頂戴してございます。ほかにもたくさんございますが、この要旨の資料をもって、かえさせていただきます、このように思っています。

次に、参考資料の1ですけれども、3月23日に市長会見という形で将来ビジョンの基本的な考え方につきまして、市長から発表させていただきます、また、その発表させていただいた内容についてのご意見を頂戴したということをしております。

参考資料1のところにあるのが基本的な考え方、どんなものを資料として市長会見に供したかというのが、この1ページから9ページまでがその情報です。もちろん、市のホームページにも公開させていただきます。その結果、いろいろご意見を頂戴しました。10ページからその結果を書いておりますが、99件のご意見を頂戴しています。12ページを見

ていただきますと、Q1神戸の都心の「未来の姿」の基本的な考え方について、どのように感じられましたかというような設問をさせていただいたところ、非常に共感できる、おおむね共感できるといった、肯定的なご意見が約8割を占めたという結果でございます。また、もちろん、個別、いろんなイメージパースもお示ししましたし、また、自由意見欄というものも設けさせていただきました。その結果の詳細について、資料をつけておりますが、お寄せいただいた結果、また、ご意見については、70ページにあります。整理させていただいております。ここでの説明は割愛させていただきます。

次に、参考資料2でございます。具体的施策に対する意見一覧という名称で整理させていただいております。これにつきまして、これはこれまでこの検討委員会を初め、この検討委員会を始める当初に当たっては、意見募集、これも継続的にも行っておりますし、また、市民300人会議といった市民参加型のワークショップで得られたご意見、また、市長との対話フォーラム、また、シンポジウムでの意見などなど。これまた、市会からも特別委員会をつくっていただいておりますので、ご議論いただいておりますので、そのようなご意見を頂戴し、また、整理もさせていただいております。そのご意見と今回、我々のほうでビジョンとして整理させていただいた施策との関連性を整理させていただいた資料というようになっていまして、八つほどのテーマに分けさせていただきました。景観だとかにぎわいだとか、交通といったテーマもございますが、その中でいろいろご意見をいただき、そういったものを、例えば、1ページ上にありますような景観の、デザインコードを設定すべきというような、こういった施策を打ち出していったのかなと。そういう意味での関連性をお示しさせていただいた資料となっております。非常にたくさんのご意見を頂戴し、また、それを集約することで、こんな施策が、今、生み出されてきたのかなと思っております。

以上、こういった形で、参考資料として、市民の皆様将来ビジョンの基本的考え方をお示した結果及びこれまでのご意見をもとに、また、この検討委員会でのご議論をもとに整理してきた結果について、経緯を少し整理させてもらった資料というのが参考資料の2と3になってございます。

一たん、ここで説明を切らせていただきます。

○会長

ありがとうございました。

これまでに至った経緯、あるいは、皆さんからいただきましたさまざまな意見の集約について、若林さんのほうから、まず、ご説明いただきました。

ここまでは、皆さんよろしゅうございますでしょうか。

ありがとうございます。

そうしましたら、きょうの本題であります、パブリックコメントに供する将来ビジョン、神戸の都心の未来の姿、資料3について、ご説明いただきたいと思います。よろしくお願

いします。

○都心三宮再整備担当課長

では、続きまして、ご説明させていただきます。お手元に資料3という冊子をお配りさせていただいております。これが今回、パブリックコメントにかけていこうと考えている素案で、本日のご議論を踏まえて、パブリックコメントに諮っていきたいと、考えているところがございます。正面のスクリーンにも同じ資料を写し出してございますので、お手元、または正面を見ていただきつつ、お聞きいただければと思います。

この冊子の構成をご説明させていただきます。夢のある未来の姿を将来ビジョンとして取りまとめしていく。これが将来ビジョンを打ち出していく考え方でございました。こういったことから、目指す将来像をどのような形にしていくのかということ、できるだけ皆さんに夢のあるように感じていただけるようにと考えまして、イラストや写真を取り込んだまとめにしております。1ページめくっていただきますと、目次を書いてございますので、全体の構成についてのご説明をさせていただきます。

目次にありますとおり、大きく三つに分けていますが、まず、一つ目の○ですが、目指す都心の未来の姿と戦略的取り組みということで、コンセプトなり、また、大きな考え方としての三つの柱だとか、八つの軸といったものを整理させていただいております。二つ目の○のところがございますとおり、八つの軸を設定させていただきましたので、八つの軸に沿った取り組みについて、見開き1ページでわかりやすいように整理させていただいている、そういった構成になってございます。ただ、観光・文化のところは、少し盛りだくさんになりましたので、二つに分けています。それと、最後には、「都心の未来の姿」の過程、これまで検討した過程と今後ということで、これからというようにくりこりにさせていただきまして、策定過程や今後の予定といったところを整理させていただいた資料となっております。

そういった意味で、1、2ページに写真がありますとおり、心地よさを追求していこうという観点からそれを感じていただけるとしたら、例えば、こういったキャッチフレーズ、キャッチコピーになるのかなということで、「日々の刺激と物語が生まれる美しき港町・神戸～他文化・多世代交流 あなたが参加しているまち～」こういったものを目指していきたいと、述べさせていただいております。ここで、刺激だとか物語とか、こういったことについては少し説明書きを入れさせていただいております。

1枚めくっていただきますと、BE KOB Eということで、震災から20年を経過し、今後新たなステージへというような形の中でも、やはり、何よりも人が主役の街だということと、さらにやはり、神戸を大好きな人、神戸に誇りを持つ人が、さらに、将来50年後、100年後にもずっと魅力があり続けると、こういったテーマが重要だろうと、こういったところを表現させていただいております。5ページ、6ページでは、今回、考えさせていただく、神戸の都心のエリアといったもの。さらには、このエリアの中で、重要な三つの柱、

一つ目が「心地よいデザイン」、二つ目が「出会い、イノベーション、そして文化で」、三つ目が、下支えとなる、「しなやかで強いインフラ」と、こういった三つの大きな柱のもと、いろんなご意見をいただいた中では、やはり、大きく八つの軸に分けられるだろうということで、八つの軸を書かせていただいています。これが景観、にぎわい、生活・居住、産業、観光・文化、防災、環境・エネルギー、交通です。

その八つの軸の個々の考え方については、6ページに書いてあるとおりでございます。この八つの軸に沿った個別の施策について、これから説明させていただきますが、注意書きということで、資料には、多くの施策案、イメージを掲載させていただいております。これらにつきましては、今後の神戸の都心が目指すべき姿というものをわかりやすくイメージするというで書かせていただいておりますが、個々にそれが実施計画とか事業決定というものを拘束するようなものではありません。取り組みとか方向性をわかりやすくお示ししたい、ご理解していただきたいということで書かせていただいております。そういった意味で、掲載の施策につきましては、今後、関係者等で十分、協議調整させていただいた上で実現に向けて取り組んでいきたい。そういった趣旨ということで、ご覧いただければというようにお願いしたいと思っております。

内容でございますが、まずは、景観です。あちこちで神戸を感じられる街へということで、左上のイメージが一番湧くのではないかっていうところを描いております。たたずまいとデザインを感じながら歩くと。こういった風景やこういった通りを感じながら、これは神戸らしいのではないか。こういった神戸らしい景観を都心内にたくさんつくってほしいということです。さらに、美しい海山を守り、景色、景観を守り育てていくという意味では、この港から見た街と、背景にある六甲山、こういった景観というのは、神戸にとって非常に価値のあるものだろうと、これを守っていくことが重要だということです。

それと、街の玄関口から神戸を感じると。玄関口、三宮もちろんですが、そういったところについては、人が来られるところですから、こういったところから神戸を感じていただく。さらに、我々も発見できなかったのですが、五感に感じていただくという中では、耳で感じるということで、音の風景を楽しむ、これは皆さん、いろんな感じ方があると思いますが、船の汽笛が神戸の港町を感じさせたり、ジャズなど神戸らしいサウンドスケープをデザインしてほしいといったこと。さらに、街の明かりに包まれるということで、特に、今進めさせていただいております「フラワーロード光のミュージアム」や、また、こういった建物をライトアップすることも、これまでやってきましたが、もっと、こういったところに重点を置く必要があるということで、景観というテーマで、このような施策を整理させていただいております。

大体、こういう形で同じようにページがあります。この中で、左下に施策、取り組みを進めていくスケジュール感みたいなものを、整理をさせていただいているところです。

では、1枚めくっていただきますと、にぎわいという観点でございます。ここでは、

次々と新しい人が訪れ、新たな出会いが生まれるまちへということで、都市空間をうまく使っていくということで、こういった公園でもいろんな人が出会うような場、それぞれの思いで使っていきこうというようなこと。また、港という意味では右上のページにございますような港の水際まで引き延ばしていきこうと、活気を延ばしていきこうということで、この港の水際にも、目的地というか、にぎわいを生み出すような場をつくっていくんだということです。ウォーターフロントのにぎわいづくりを行っていくというように書かせていただいております。さらに、海だけではなくて、海と山を感じる、それを街なかで感じるということが重要だろうと。また、まちの魅力をまちの人がつくり・育てる、そういったことにつきましても、例えば、この中でも議論いただきましたB I Dといった形で、地域の皆様自身でこの場を活性化させていただくと、そういったことも官民のパートナーシップのもとでやっていくことが重要というような形で上げさせていただいております。また、まちの新たな広がり生まれるということでは、エリアの中でもそういった拠点、例えば、駅の拠点といったものも重要だろうというような形で上げさせていただいております。

もう1枚めくっていただきますと、生活・居住でございます。人がつながり、まちに溶け込み、自分らしい生活がおくれるまちへ。神戸の都心エリアは非常に自分らしい生活が送れるまちなんだと。例えば、神戸の地の利を生かすという意味では、地産地消を楽しめる場があったり、また、神戸にはいろんな魅力があるという意味では、右上にありますように、シーンにあわせて着がえる、そういった場を街なかにつくっていきこうと。また、子供の笑顔でまちが繋がる、子育て世代の方々、また、これからの未来というのは若い方々、子供さんが背負っていくんですが、そういった方もまちに親しんでいただく、都心を楽しんでいただくといったことに力を入れる必要がある。そういったことを重点的にやっていく。また、まちに気配りを感じるといった意味では、トイレについても、大型商業施設では、もう取り組まれているところあると思いますが、街の中では、トイレも非常に重要な空間ですから、そういったものをよくしていきこうと。さらに、生活・居住というのは、魅力的な都心であり続け、都心の中での生活・居住、都心居住といった意味も促進させていきこうということでございます。都心を身近に感じるといった意味です。

1 ページめくっていただきます。産業でございます。そこで生活するには、働く場、産業、そういったものが生まれるということが重要ということで、人とアイデアが反応し合って融合し、新たな価値が創造されるまちへと、そういった意味で発想が形になるまち、そういうような支援をしていきこうと。そういう意味ではアクセラレーションプログラムといったものを提供していく。こういったことは非常に重要なことだろうと、また、右上にありますとおり、素敵な人と新しい発想に出会う。いろんな分野の方々がいらっしゃいます。起業家もいらっしゃいますし、研究者もいらっしゃいます。そういったいろんな方が出会うことで、そこから生まれるものがあるだろうと。そういった場が、必要ではないかといった意味では、こういう場を提供したり、また、それがうまく起業に結びつく、技術

革新に結びつくといった意味では、神戸スタートアップオフィスなどといったものを展開していきたいと考えております。この下に、階級なし、実力主義。といった少し強い言葉がございますが、これはやはり、ITです。アニメの世界でも神戸市公安9課と、こういったもので、神戸の都市をとらえたようなものがございますが、また、ITもそうですが、それをうまく活用するオープンデータ、ビッグデータ、こういったものを積極的に利活用することで新たなサービスや事業を起こしていこうと。そういった取り組みを今も進めているところですが、今後も、積極的に取り組んでいくということでございます。さらに、夜も面白いことが起こる予感がするといった意味では、街なかで、産業といった意味で、もっと生み出せるものがあるのではないかと。そういう意味では今も、いろんな仕掛けが街なかでもされているところですが、そういったものが生み出されやすいまちにしていこうということでございます。

1 ページめくっていただきますと、さらに、観光という部分です。観光・文化の部分を観光という形で整理させていただいております。五感に響く心地良さとおもてなしのあるまちへということ、世界に誇れる美しい夜景がまちを彩る。観光の一つとして、やはり、夜景というのも、魅力の一つだと思われまますので、そういったものを、さらに充実させていく。また、観光客は、外から来られるわけですから、右上にありますような、おもてなしの心を玄関口から感じる。玄関口をもっと整備していこう、おもてなしの気持ちを表していこうという取り組みをしていく。また、来られた方がすぐに知りたいこと、行きたいところがわかるとか神戸の魅力にすぐ触れられるという意味では、インフォメーションや、また、いろんな情報を得られるためのWi-Fiの環境、また、案内サインシステム、こういったものは三宮を中心に、さらに、都心全体に広げていく必要があるということで、こういったものを上げております。さらに、来られる方には当然、外国人の方、インバウンドの方もおられますので、外国人にとっても心地良い空間が要るだろうと、そういったところで、神戸はいいねと感じていただく。また、それを広めていただくということが重要ということで、このような場をつくっていききたい。また、この方々が来られたときに、いろんなお買い物もしていただく。そういった中では商店街を丸ごと免税店にするなどという、減税といったことも非常に重要だと思ひまして、そういうことを上げさせていただいております。

1 ページめくっていただきますと、文化でございます。港町の歴史と文化に触れ、上質な時間を過ごすということ、仕事を終えてからも、何か飲みながら、自分の興味のある本に触れる、そういったゆっくりとした時間を過ごせる。また、まちなかで、右上にありますとおり、心地良い上質な音楽に出会えると。こういったまちの仕掛けをつくっていききたい。ストリートミュージックが流れる仕掛けをつくっていききたいということです。また、まちなかで歴史を感じていただくといった意味では、まちなかで歴史を学ぶ、ARという拡張現実、以前のまちの状態はこうだったんだということ、Wi-Fi環境を整えたり、

ビッグデータを活用するなどしながら、まちの魅力がまた触れられるのではないか。また、まちなかでは世界レベルのローカルフードを堪能できる。神戸ビーフだけではなく、洋菓子やパン、いろんな神戸の農作物もごさいます。こういったものが、まちなか、都心の中で堪能できると。ガストロポリス（食都）をめざそうというようなことをごさいます。

1枚めくっていただきますと、防災です。不測の災害に対しても対応可能な、しなやかで強いまちへということで、これはやはり震災を経験した神戸市としては、必ず必要な点をごさいます。こういったものは下支えとして、外に出てないんだけど、これはきっちり備えていると。そういう意味で、備えた安心の上で華やかににぎわおうということ。もし、いざというときということでは、右上にごさいますように、いろんな方々、外国人の方々も来られているということで、多言語で緊急的な情報、避難の方法が案内サインとして示されるといったこと。また、昨今のゲリラ豪雨もごさいます。そういったものに対してもきちんと貯留機能を携えていこうということをごさいます。また、この下にありますStudy Survivalということで、楽しみながら生き抜く力を学ぶ、防災力を高めるといったことでは、こういったまちの公園も使いながら、阪神淡路大震災の記憶を伝えつつ、どのような対応をしていくかということを楽しみながら学んでいくといった取り組みを行っていこうということをごさいます。

1枚めくっていただきますと、環境・エネルギーといったテーマでくくってごさいます。環境に優しく、エネルギーをスマートに活用する持続可能なまちへということで、生田の森のような緑に触れられる。心地良さをまちへ延ばしていこうと、そういった点。右上には、高効率で強靱なエネルギーを賢く選択する、スマートにエネルギーを使おう、また、緊急時には、エネルギーを融通し合えるとか、低炭素、環境に優しいといった意味での、こういう電気だとか、熱の融通システムを都心内に構築していこう、また、新たな進取の気性というのをごさいますので、水素エネルギーといったような、新たなエネルギーも取り込んでいこうと。さらに、地球に優しい自転車、今、コベリンなども非常に人気をごさいます。こういったものをうまく活用していこうということをごさいます。

1ページめくっていただきますと、八つの軸の最後になりますが、交通でごさいます。誰もがわかりやすく使いやすい交通手段が整い、歩く人が中心のまちへといった形で回遊性を高めていこうと、そういう観点です。人とまちに優しい乗り物がまちを個性的につなぐということで、まちの個性をつないでいくといった意味では、歩くだけではなかなか、高低差等もありますし距離もありますので、新たな交通システム、もしくは、交通体系そのものをよく考えていく必要があるということで、そういったことに取り組んでいく。また、右上にありますとおり、個性あるエリアを歩いてめぐると、例えば、新神戸から北野は非常に近いのですが、すんなり行けないといったところもありますから、そこをつなぐようなルートを整備していきたい。そのようなことを掲げさせていただいております。また、回遊性を高めていく上で抵抗となるのは、料金といったことをごさいます。料金体系をわ

かりやすく使いやすい、気軽に利用できるものにしていこうといった意味では、ゾーン内均一料金制度といったものを導入できないか。こういった検討をしていこうということでございます。それと、わかりやすいバスターミナルで他のまちとつながる、中長距離の都市間バス等、こういったものについては、ひとまとめにしたバスターミナルをつくることで、外からも来やすくなるのではないか。そういうことをしていこうということでございます。

1 ページめくっていただくと、見開きになりますが、これまでの経過について、写真等を用いてお示しさせていただいております。まず、検討委員会を初め、市民参加型という意味では、神戸の未来のまちづくり300人会議だとか、市長との対話フォーラム、また、先生方にたくさんお集まりいただき、市民の方も参加していただいた、都心の未来を考えるシンポジウムなど、また、右下には、この「未来の姿」検討委員会でご議論いただいたと。こういったものを経て、この将来ビジョンをつくってきたという経過でございます。こういったものを、できたらさらにプロモーションしていく必要がある。外に、皆さんに知っていただく、また、神戸はこのような未来をめざしていますと、動き出していますということでは、神戸市という意味でのインナープロモーション、また、外側へ向けてという意味ではアウトプロモーション、こういったものが重要で、こういったものに取り組んでいく。そういったところの視点も含めまして今回、ビジュアルな形で将来ビジョンというものを考えてございます。

18ページ、生活・居住の、都心を感じていたくという右下のところですが、魅力的な都市であり続けるという中でも、ここについては、前回のご議論でもありましたとおり、都心居住という意味で、居住を抑制するエリア、これは考えていく必要があると考えているところです。

この資料3の説明につきましては、以上でございます。よろしく願いいたします。

○会長

ありがとうございました。

そうしましたら、たたき台ということで、資料3をつくっていただいたのですが、皆さんのほうから、忌憚のないご意見、ご発言をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員

実は、先日、仕事で長崎を訪れることがありました。長崎市の市長をはじめ、いろいろな方とお話をしたときに、長崎市の名刺が夜景の名刺になっていたんです。それでお話を聞きますと、長町先生のほうが詳しいと思いますが、世界の新夜景景観のベスト3に、日本では長崎が選ばれているそうです。私は、今も函館観光大使をやっているのですが、夜景では、函館も神戸も魅力的です。ただし、世界の新夜景景観のベスト3に選ばれているのは長崎ということを考えますと、神戸の夜景は、非常にプライオリティの高い魅力だと

と思いますが、この魅力を日本の中での3大景観というのではなく、世界に誇れる夜景景観にするために特徴化が必要ではないかと、思うようになりました。まだまだ私の知らない各都市が本当に努力をされて、いろいろやってらっしゃるといふのを最近身近に感じました。私は神戸の夜景がすばらしいと思っていたのですが、世界のベスト3に選ばれていたのが長崎で、ちょっとショックでした。これをもう一度、未来の姿の中で、神戸として、世界に誇れるようにするために、何を特徴化すべきなのかという事を、再考したいと思いました。

○会長

ありがとうございます。

○委員

今のお話は全く私も同感で、長崎が新三大夜景に選ばれているのは、ちょっとどうかなと思います。正直、神戸のほうがいいだろうと、専門家として思っています。ただ、シンガポールが選ばれているということは、ほぼ、全世界の専門家がみんな納得すると思います。そこには、今神戸も一生懸命取り組んでいる遠景のビューと、そして、各エリアごとの美しさと、マスタープランを持って進めるとか、これは全く遜色ないんです。今、やろうとしていること。さらに推し進めて、何が足りないかという、今、おっしゃったように、大きなパンチのあるシンボリックな、例えば、建築物だとか、何か力強いものがさらに必要だとか。神戸大丸さんは、常に建築物として、夜景の写真を皆さんが撮るときに、出てくるものですが、そのクラスのものでさらにまちの財産として必要だと思います。そういう意味でいくと、現在やっていることも間違っていないし、さらに、力強く頑張るといふことだと思いますが、シンガポールも、10年ぐらいの間に今の状態になっていますので、神戸もまだまだやれると思います。

○会長

競争に勝つことは、やりようによってはまだまだできるというお話でした。ありがとうございました。

○委員

夜景の件で、今、お話を聞いていて、確かに、世界中どこへ行っても、私は、神戸は負けないと思いますが、ただ、見せ方が下手だと思います。観光で夜景を見に行くといひますと、ヴィーナスブリッジしか、出てこないような感じがありますが、ロープウエー上がれば、ハーブ園にすばらしい夜景があります。市街地から7分程度、ロープウエーに乗ればいいのですけれど、委託していらっしゃるの、夜間があまりあけてないときもあるという問題もあるかもしれませんが、そういうのをもう少し取り込めば、あれだけの短い距離を乗れば、美しい夜景がある、山の中から見える夜景なんて、世界中でも少ないですから、長崎もロープウエーで上がっていきませんが、馬蹄形の湾と海が見えて、これは絶対勝ちます。

それから、この冊子は、とてもよくまとめて、久しぶりに行政絡みではすばらしいと思いました。16ページに子供の預かりなどいろんなことが書いてありますが、神戸は、今もう日本国中ですけれど、出産率が低下し、高齢化しているので、子供を産みたくなる、安心して子供の産めるまちというふうに、医療産業都市もありますし、もう少し産婦人科医が頑張っ、神戸では安全で急なときでも子供を絶対産めるんですと。その後、保育園があり、幼稚園があり、買い物をしたかったら託児所があり、そういう子供をとて守るまちにしていくと。幾ら買い物の場所をつくっても、人口が増えなかったら、意見がありませんので、産んで育てるという方向をもう少し出されたらどうかなと思います。

もう一つ、JRさんをお願いですが、海外からいらした方がユーロチケットを持たれて乗られるんですけど、のぞみに乗れないんです。そうしたら、旅行者というのは時間が制限された中で、いかに、どこどこに行きたいと思っているのに、ひかりとこだましか乗れないのは、新神戸からたくさん出るのはのぞみなんです。お金を払ったら乗せてくれるらしいのですが、旅行に来られる方は、そのチケットで行きたいと思っていますから、とても不便だという声をいつも聞きますので、JRさん頑張っていていただいたらどうかなと思います。

○会長

ありがとうございました。この夜の写真も事務局の労作というかセンスで、とてもきれいな写真ですが、これに加えて今、おっしゃったようなところもまた、加えていただくか、しかし、16ページの写真は、このマルシェのところにお子さんを胸に抱いた、とてもきれいな写真が使われていて、イメージとしてはいいのではないかと思いますけれども、JRさんに関しては、どうぞ、よろしく願いいたします。

○委員

三宮駅の東口が検討されているのを大変うれしく思っています。東口ができれば、北側の、あるいは南側の、とりわけ南北とも非常に影が薄くなってきている町で、少しというか、陰りが大変出てきている町ですので、ゾーニングとしては検討しやすくなってくるのかなと、そんな期待があります。東口が開発されることによって、とても効果があると思います、大変な期待をしております。よろしくお願いを申し上げたいと思います。

○会長

ありがとうございました。

今回、この都心の未来の姿では、明示的には出ていませんが、午前中、三宮構想会議がございまして、そこでは、東口についても案ということで記述されていたということでございます。

ほかに、いかがでございましょう。

○委員

私は以前、神戸に住んでいたことがありまして、リタイア後はまた神戸に戻ってきて住

みたいと思っております。この冊子の中で、神戸は大きなハンディを背負っていると思うところがあります。それは何かというと、ウォーターフロントと都心を分断している高速道路です。これは以前にも話題が出ていたと思いますが、それをどうするのか。ヨーロッパの環境都市の中では、イエテボリが、ウォーターフロントと都心を分断している道路を地下化したという事例があります。これはイギリスもたしかやったと思います。それを地下化するというのは、資金面で現実的ではないかもわかりません。それを考えて、皆さん、言いたいけどこらえていると思います。

それで現実的に、何ができるかといいますと、分断されている部分に、海と都心をつなぐ機能を何か持ってこれないか。例えば、この冊子の中の5枚目のスライドの中に、高架の高速道路が書いてありますが、六甲山と同じ色にしてあります。緑にしたというのは、こういう気持ちが込められていると思います。一つやれることとしては、高速道路の壁面を緑化する、あるいは、高速道路の壁面緑化によってグリーンベルト化する。あるいは分断しない、高速道路のほうに寄っていても違和感がない。鉄道については、その下をうまく活用しているから、あまり違和感がないのですし、あちこち通り抜けができる場所もあります。高速道路の下も、そういうふうに我々が親しめる空間に改造して利活用していくと。それによって分断している部分を心理的に軽くすると言いますか、すっと通り抜けていけるようなものにしていく。そういったことを、将来構想としては入れてもいいのではないかと思います。

○会長

ご専門の立場からそういうご発言をされました。私の専門から言いましても、古い産業地域が再生する最初のきっかけは、こういう昔非常に重要な役割を担っていたものをうまく地中化したり、少し迂回したりという、非常に難しいけれども、重要な、大胆な政策をとったところは、これまでも多くの世界の都市で見られるところです。我々の領域では、そういう、かつてのものが邪魔をしているということ、ネガティブブロックインという言葉を使っているのですが、神戸のハンディの一つとおっしゃいましたが、これは日本の多くの都市でやはり、同じ構造があるのだと思います。先ほど壁面の緑化とか、高速道路の地下化という意見をお示しいただいたのですが、国交省の方も聞いてらっしゃるので、私は、もう埋めてはどうかと、地下化してはどうかと思っております。これは世界各国で、コストはかかるけれども成功しているということでもありますので、ぜひともご検討いただければと思っております。ありがとうございました。

ほかに、いかがでしょうか。

○委員

今、高速道路の問題が出まして、海と都心の分断というお話が出ましたけれども、実は、元町の来街者数について、昭和40年代、中突堤に船がたくさん着いていた時代は非常に繁栄していましたが、その乗降客数が減ると同時に、斜陽になってきているというのは、数

字的に明らかです。今、元町は非常に交通網がもぎ取られているような地域になってしまっていて、市電はなくなる、バスはなくなるということで、港と都心を結ぶ交通網は、多分、ポータルライナーぐらいしかないと認識しています。結局そこからの人の流れをつくれないということが非常に問題になっています。

そういう中で、特に、12ページ、13ページのところですが、にぎわいづくりの拠点で鯉川筋が実施中ということになっていますが、ここは唯一ど真ん中に2号線や港から入ってくる交通の要所になっています。ここを人中心にと行って、分断されてしまうと、非常に人の流入が悪くなるのではないかと、我々は危惧しています。ですから、再構築するのは構いませんけれども、神戸というのは、どちらかというと、車中心と言いつつも、非常に人中心の町になっているわけですから、車と人、交通が一体となるというように、こういうところの表現も変えておいていただきたいと思います。人に向かうんだと行って、何でもかんでも歩いてもらうというふうに取り除かれるようなことは、今後都心に人を回遊させるためには、逆にマイナスになるのではないかと思います。

また、我々が、魅力アッププランを作成したときに、地元ふうのB I Dに近い仕組みをつくっておりますから、何でもかんでも欧米型のシステムではなくて、日本型のB I Dの構築というものを、神戸市として考えていただいて、現行法制度のもとにおいて、どうやってB I Dを完成させるのかという点についても、十分議論いただきたいと思います。やはり、神戸から発信する、日本型のB I Dを目指すんだというような表現も要るのではないかと考えております。

○会長

ありがとうございます。バンクーバーでは、B I Aという表現になっていますが、やはり、カナダ型、バンクーバー型という仕組みに変えながら、町の中で展開しているという構造でしたが、確かに、神戸型というのは、大事かもわかりません。ありがとうございます。

ほかに、いかがでございましょうか。

○委員

この資料を見ていましたら、24ページの観光と、28ページの文化が、同じ色で中に書いてある、五感に響く心地よさという、全く同じ表現が書いてあるのですが、これでいいのですか。

○都心三宮再整備担当課長

そこにつきましては、観光、文化という一つのくくりで、まずはさせていただいている中で、内容が盛りだくさんになったので、観光、文化がセットですが、観光と文化とでページを分けさせていただきました。ただ、観光・文化というひとくくりでは、五感の響く心地よさと、おもてなしのある町へという、コンセプトというかテーマをつけさせていただいているということなので、同じ文字になっています。

○委員

意味はわかりましたが、観光という言葉は非常に新しい言葉で、もう少し、言葉の定義をしっかりと見て使ったほうがいいのではないかと思います。文化と、観光は一緒ではないと、僕は思います。

それと、文化のところ、29ページに、世界レベルのローカルフードを堪能するという言葉の中で、ここに料理の絵がありますが、やはり神戸ですから洋菓子、スイーツを取り上げて語れるところ、そこにページを割いたほうがいいのではないかと思います。それと、ファッション、これも神戸の特色であると思いますので、どこかに取り上げていただけたらと思います。

それと、夜景の話がありましたが、山から見る夜景ばかりですが、ポートタワー、神戸空港、この景色もとてもきれいです。何かビューポイントに表現されるのもおもしろいかなと思いました。

○会長

ありがとうございます。いろんな資源がどんどん出てくるので、満載になっていきますが、事務局のほうでまたご検討ください。

ほかに、いかがでしょうか。

○委員

専門が防災ですので防災という観点と、このごろ京都に引っ越したので、そこからの観点からということで、1点目、防災です。当然のように備えるというフレーズがいいと思いますが、さすが神戸といわれる、そういう何かフレーズもいいのかなと。この20年、大変な思いをして復興してきた神戸ですから、当然のようにできていて、何か起こったときでも、さすが神戸だなと言われる、そういう防災のレベルというのがいいと思いました。この下に水をためるものがついてるのですが、これを使うということもすごく重要なことだと思います。都心部は、水がないんです。20年前にも、あそこの川のところをせきとめて頑張っていたので、それを見比べると、使える水というのが重要だと思います。

それから、もう一つ、産業ですが、神戸は六甲アイランドに外国の方向けのいい学校があるというのが実はとても強みです。京都に来られる大学の先生は、神戸に住んだりします。子供たちを育てる上で、いい高校、インターナショナルスクールですね。実は、それが、京都にはありません。中学校まではありますが、高校はありません。そういう観点からして、外国の方もここで働けると。外国のいい先生が来られて、そこの息子さんも、いい向こうの大学に行きたいという場合でも、ここで子供たちを育てられるというのが、実は本当の神戸の強さだと思います。

○会長

今のご指摘もどちらかというと教育だから文化のほうに入りそうだけれども、実は、産業と非常に密接に結びついているという、お話だったと思いますので、このあたりもぜひ

ともお願いいたします。

○委員

3点ほど、申し上げたいと思います。

1点目ですが、この将来ビジョンの冊子を見まして、これまで、この場で議論したことがないことがとてもたくさん入っているように思います。議論したものについても、いろんな意見があつて、必ずしもみんなこれがいいというわけでもなかったと思いますが、その中の、一部の方の意見は採用され、一部の方の意見は採用されてないという状況だと思います。事務局の方に、その辺についてお伺いしましたところ、この会議は意見を聞く場であつて、みんなで合意して一つの結論を得る場ではないということでしたので、そういったことであれば、神戸市、もしくは、神戸市長がまとめた思いであつて、この会議全員のメンバーの合意ではないですということをごどこかに書いておかないといけないのではないかと思います。

2点目ですが、三ノ宮駅東口についてですが、14ページの絵を見ますと、ほかの絵はぼんやりと書いてありますが、この絵だけ、特定のバス事業者さんのターミナルがなくなって、特定の鉄道会社の出口ができてるように思えます。この場はみんなでどういう都心にしようかということ語り合う場であつて、誰々は出ていき、誰々は入るといふような、そういう場ではないと思いますので、この絵は問題があるのではないかと、思います。

あと、このまちの新たな広がり生まれるという、このタイトル自体は非常にいいと思います。駅から、南側、北側、それから、東側にどんどん広がり生まれるというのはいいのですが、中に書いてあるのが、三宮のことだけです。しかも、東口のことだけなので、都心の未来の姿ということから考えると、どちらかという三宮構想会議のほうではないかと思ひます。この会議では神戸駅、元町駅、新神戸駅も含めて、駅からまちへどんなつながりかということ語り合う場ではないかと思ひましたので、少し違和感がありました。

三つ目ですが、その前の景観の8ページのところに、景観デザインコードというものがあります。これは、おおむね皆さん賛成されていると思ひますが、デザインコードというのは、非常に難しいといひますか、この神戸の都心の中でもさまざまな魅力の違う地域があります。北野と三宮と中華街では全然違います。ですから、デザインコードをつくる時には、ぜひ、地域の特徴をよく考えてつくりなると一律的なものをつくってしまひますと、むしろ、景観がおかしくなる、活力もむしろ失われてしまう可能性もありますので、今ある特色を生かすような形で、もっと言うと、今ある民間の事業者が独自性を發揮して頑張ったら魅力的なまちになりましたという、うまく誘導するようなデザインコードをぜひつくっていくべきではないかと思ひます。

○会長

ありがとうございます。デザインコード、景観に関しては、神戸市はとても、歴史のあ

る町ですが、制度に関することですので、事務局のほうで、ご発言について、ご検討いただければと思います。最初の二つについては、事務局のほうから、簡単にコメントをいただければと思います。まず、これはメンバーの合意ではなく、神戸市が編集したものであるという趣旨だったと思いますが、これはいかがですか。

○都心三宮再整備担当課長

それはそのとおりで、そういう意味で、最初に表示させていただいているものは、このビジョンのパブリックコメントの中でもお示ししていきたいなど。そういう形にさせていただけたらと思ってございます。

それと、二つ目、少し特定のところではないかと、そういったところにつきましては、いろんな意見がございました中で、確かに、そういった点もございますけれども、やはり、駅や鉄道は、ある意味公共性の高いものだということでのご意見をいただいているという観点もあったと思います。そういったところから広がりという意味では、そういったことが望まれているというのは、いろんなこの場でも、また、我々がいただいた意見の中でもあります。確かに、個別のところから見ると、そういうようなご意見になるのはよくわかりますので、表現については検討させていただけたらと思っております。

○会長

先ほどのご指摘もそのとおりだと思いますが、ここに至るまで、神戸市民の皆さんも含めて膨大な意見をいただいて、全体を編集するという形でここに至っていますので、そのあたり、ご理解いただき、また、表現につきましては、このご指摘の写真も含めて、事務局のほうで再度検討されるということで、お願いしたいと思います。

ほかに、いかがでございましょうか。

○委員

今のお話を聞いていて思ったのですが、この冊子はとてもよくできていると思うのが、非常に具体的で、今、ご指摘があったようなことを感じるほど、どこの何をどうするという感じがそれぞれわかってしまいます。神戸市がそれを考えているのもわかるから、逆に反対意見もパブコメに出ると思います。

もう一つ必要なのは、ここの左下に、いつごろ何をしようとしているというのが、ラインで書いてあります。こういったことは、よく行政のこういうビジョンは、押しなべて緩く書いてありまして、いろんな気を使って、やることが具体的でなくて、漠然と書いてあるというパターンが多いですが、神戸の皆さんは、その辺よくおわかりで、市民の代表の方とかも、施策を具体的に書かないと絶対動きません。施策はね。ですので、パブコメに出しまして、オーケーということになりましたら、本当にやるんだというものを書いていただいて、今、出ているものは恐らく大きな反対意見が出てないということは、この何か月もかけて議論していきながら、オーケーと思っていることだと思うので、絶対やる内容を具体的にしたいと思います。

そういう意味で、一つだけ挙げれば、例えば、12ページの活気のある市民生活を港の水際まで引き延ばすという、これは非常に大事で、水際でない地区も水際、港神戸で、みんなが引っ張られる。これは当たり前ですので、みんなそこに観光も来るわけですし、そういう意味では昼も夜も港の風景と港の施設と港のにぎわいというのは肝になるわけですが、現実的には、しっかりと予算をとっていただいて、そして、港湾部の先端にこの絵のような活況がつけられるということが本当の希望だと思います。ですので、イメージだけではないことに、ぜひとも実現してほしいと思います。

○会長

ありがとうございます。もっと具体的でもいいのではないかと。

○委員

もっと具体的でもいいと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

24ページですが、外国人も心地よいということのところに、インターナショナルスクールのことをおっしゃっていましたが、神戸は宗教がとても多いです。世界中の宗教が北野だけでも九つもあります。外国人というのは、自分の宗教の教会などがあるところとても魅力を感じていますから、明治時代から宗教がこれだけ地についてあるところが少ないので、それも出されたらどうでしょうか。

○会長

ありがとうございます。

○委員

全体として、非常に元気の出る冊子だと思います。大変ビジュアルでイメージが湧きやすく、よくできていると思います。

交通のことでお話をさせていただきますが、最近、交通やまちづくりの分野に対して医学系の先生方が関心を持たれ、一緒に研究しませんかというプロポーザルもあります。というのは、車の利用率とBMI、肥満率との間には高い相関がみられると言われており、徒歩や、日常的に自転車に乗っている人は、生活習慣病にかかりにくいのではということで、そういった視点からもデータが集められています。

また、病気の発症率と都市環境・生活環境との関係にも関心が向けられています。さらに、人々が1歩余分に歩くと医療費がいくら削減できるという試算を試みた研究報告も出されています。とにかく車にあまりにも過度に依存していると、確実に我々の健康はむしろ悪くなります。

車から降りて徒歩や公共交通を使って都心を回遊できるということは、健康の増進につながり、高齢者にとっては日頃から外出機会が増えることによって要介護に陥ることを予

防することもできます。医療産業都市ということで、医療機関だけで健康を増進するのではなく、まちなかを歩き回ったり、またウォーターフロントを自転車で走ったりすることによって、健康を増進できるのだという、そういう発想も交通のところに付け加えればおもしろいと思います。

市民意見をみてみると、歩くことや公共交通の利用を重視することに対しては、おおむね皆さん共感されているようです。冊子の32ページにも、それから40ページにも、歩行者、公共交通優先のまちづくりのイメージが描かれていますが、既存の交通手段だけでなく、都心部での回遊性を高めるために、あたかも水平方向の移動を支えるエレベーターといますか、そういった新たな発想でLRTを導入したり、あるいはレンタサイクルやパーソナルモビリティを活用したりするなど、様々な仕掛けを検討されるとよいと思います。

○会長

ありがとうございます。まちを歩くということが非常に重要なコンセプトで、それは実は健康にもつながっていると。実はその健康というキーワードをさらに進化させると、ポートアイランドのバイオメディカルクラスターにも結びつきます。ウォーターフロントまでは行くと書いてありますが、さらにその先のポートアイランドにまでは、都心は届かないのでしょうか。そのあたり、健康とか医療産業というような、神戸市は別の部署でやっておられるのだと思いますが、神戸の都心、広域都心を考えるときには、そこまで何か一言でもあると、そうか、ここにあるぞというのがわかっていいと思います。

ほかに、いかがでしょうか。

○委員

すばらしい計画だと思って拝見させていただきました。ただ、実際の生活者の目線から見たときに、実際にはすごく高齢者がふえてくるという点がございまして、ですから、ある程度の健常者であれば、まちを歩くということはすばらしいことで、自転車もいいと思いますが、高齢社会になったときに、みんなの足というのは、公共交通と考えられると思います。人が行き交って、活気があるまちにするということは、実際、そこに暮らしている住民が日常生活を楽しめるという意味で、もっと回遊しやすいまちという意味で、既成のバスの路線であるとか、そういうものも充実するというのを考えていただきたいと思います。もっと、三宮から北野、北野から元町、海のほうというふうに自由に行けるような交通機関があってほしいと思います。昔は、もっときめ細かく、市電も走っておりましたし、バスももっと路線がたくさんあったと思いますが、やはり、採算性の問題ということで、どんどんカットされていったという現状がありますので、そこがやっぱり大事だと、市民目線からはそんなふうに感じます。

一点、先ほど長崎市の話が出ていたと思ひまして、実際、私も長崎に行かせていただいたことがあります。すごくきめ細かい、まちの紹介であるとかということがなされているように感じました。実際に夜景にしましても、神戸のほうは断然すごいと思いますが、例

えば、この間も外国のお客様が来られて夜景をと思って、六甲山にご案内したのですが、どこが本当のポイントなのかというところがなかなかわかりにくかったです。そして、よくわからないままヴィーナスブリッジに行きまして、それから、ポートアイランドの北公園へ行ったのですが、行ってみればすばらしいところが実際にありましたけれど、その辺の案内の仕方とか見せ方というところは、もう少し頑張れると思いました。

○会長

ありがとうございます。都心の回遊性、移動に関しては、コメントをいただきたいと思っています。

高齢化社会になると、回遊性が大事なので、公共交通機関が今後もっと重要だという話についてコメントをお願いいたします。

○委員

今、国のまちづくりの政策では、コンパクトシティー、歩いて暮らせるまちづくり、集約型の都市構造をめざしていこうというのが、一つの方向性となっています。そのためには、施設の立地を適正化するという観点から、郊外にある公共施設や商業施設などをもう一度まちなかに戻すことが必要であり、このための優遇措置が講じられるようになりました。こうした施設の適正な配置と同時に、交通の面からは、従来からの車への依存から、歩行者・自転車を重視した、公共交通を主軸とする交通システムの構築が求められています。都心部に着目すると、いかに来街者の回遊性を高めるかが重要な課題であり、このためには質の高い歩行空間の整備と、便利で快適な公共交通の導入がキーになっていると思います。

海外の例になりますが、フランスでは、こうした歩行空間と公共交通を重視した整備を行うことによって、都心でのにぎわいが増えその活性化に成功したという事例が、中小規模の都市を中心に、数多くみられます。こうした都市では、市長は立候補するときに、必ず、ライトレールのような主軸となる公共交通の導入と、歩行者空間の整備を公約して、任期中の5年間で完成させ、それが市民に評価され再度立候補して当選するという、そういうルーチンのようなものさえできています。日本と諸外国では都市の構造も違いますし、日本のそれぞれのまちに合ったような形で歩行空間の整備、公共交通の整備を行うことが行うことが必要です。神戸に相応しい整備の仕方、モデルをつくりあげることができればと感じております。

○会長

ありがとうございます。

○委員

パブコメ前の資料としては、評価いたします。神戸市民の方に神戸の都心の将来について、明るい夢のあるイメージを持ってもらいたい。そういう意味で、これをパブリックコメントで出すことについては、意味があると思います。そして、これをご覧になった方が、

神戸の将来に思いをはせるという意味で、効果があると思います。今、本当に市民の方が、神戸の将来について夢を持っているかということ、あまり持っていないと思うものですから、そういう意味で評価いたします。

最初のところで、八つの軸、三つの柱と、これがいわば、編集方針で、その後の項目ができています。ただ、先ほど申し上げた効果があるので、だめだと言っているわけではありませんが、やや女性マガジンのような印象を受けました。八つの軸はその通りですが、それぞれのコマを三つの柱で整理したときに、本当に、きちっとした切り口が出ているのかどうかという点を改めて、見直しされたほうがいいのではないかと思います。

それから、基本的な部分ですが、ゾーニングという考え方について、私は、きっちり分けるということは、必要ないのではないかと思います。例えば居留地も、オフィス街や、商業施設が組み合わさる中で、見事な街になっていますから、ここは商業ゾーンです、ここはオフィスですというような意味でのゾーニングという分け方はいかがかと思います。そうは言いながら、今回の守備範囲のエリアをさらに幾つかのゾーンとして特色を出すというようなことは検討されたのか、あるいは、今回はそういうことは考えておられないのかということが一つ気になります。

それから、私は、商工会議所の都市力創造委員会の委員長をしております、都市力とは何かという議論があった際、いわゆる高速道路や港湾などの社会インフラだけでなく、これは教育や、健康、医療などのインフラも非常に大事な都市力のベースになる。人間が生きていく上での大事な要素、特に教育インフラなども忘れてはいけません。こんな議論を時々しているわけです。午前の会議で、治安の話もありましたが、治安・安心・安全というのも大変重要な都市力だと思います。そういった切り口から、もう一回見直して整理していくような作業も、パブコメを出すまでに必要だと思います。

それから、キャッチコピー的な表現がふえてしまっているものだから、それぞれに思いがわかりにくい部分が出てくる可能性があります。できるだけ丁寧に解説をすべきであろうと思います。もう既に使っておられるので、今さらと思われるかもしれませんが、このBE KOBEというのは、わかったような、わからないような気がします。ぜひ、このBE KOBEというのはこういうことだというのを神戸市から、しっかり言ってください。BE KOBEとは、どういうことを言いたいのか。それから、何よりも人がまちの主演と書いてある、そのとおりだろうと思いますが、それとBE KOBEとの関係がピンとこないのです、こういうキャッチコピーは、みんなが素直に受けとめられるほうがいいと思います。昔、神戸市は、クオリティー・オブ・ライフ、QOLと、一生懸命言っていました、誰も言わなくなって、フォローはなしで言うのをやめてしまったこともあるような気がしてまして、ぜひ、このBE KOBEは、いろんなところにBE KOBEを使って、あらゆる神戸市の発行するものにはBE KOBEと書いて、アピールするなら徹底的にやっていただきたいと思います。

○会長

ありがとうございます。事務局のほうから一言お願いします。

○都心三宮再整備担当課長

最後に言っていた、まさに、BE K O B Eを、使っていかなければならないと思います。クオリティー・オブ・ライフも追従が後々なくなってしまっているというのは、確かに感じるころなので。これは、震災20年を迎えて新たなステージに向かっていくんだと。その中で人中心だと、人がということを出しておるのですが、まさに、これから使っていく必要があると、そのような思いで入れさせていただいておるところです。

○会長

お願いします。

○委員

BE K O B Eは僕も言おうと思っていたところで、大分前からいろんなところで、特にSNS系でよく出ていたのですが、さっぱり意味がわかりません。その辺、ぜひ、詳しくというか、丁寧に出していただけたらと思います。

この資料を見たときに、わくわく感を非常に持たせていただいたので、全体としては非常によい読み物になっていると思います。

ただ、その中で、これは文言の話ですが、都心居住の部分で、促進をしていくという反面、都心居住を抑制するという、相反することがあえて書かれているというのは、いろんな意見の中で、都心居住の抑制エリアを定めたほうがよいみたいなことが、出たから書かれているということだと思いますが、こちらの、事前の意見募集の中の61ページの92番に書かれているのが、完全に言い当てられている内容だと思います。逆に言うと、こういったことも含めて考えると、いわゆる抑制エリア、初めに資料出されたところが三宮センター街エリアは居住エリアから外されているわけです。果たしてそれがいいかどうかということ、もう少し議論の余地があると思います。

○委員

産業のところ、私は、港町神戸と言うなら、いわゆる海事クラスターのことをアピールできないのかと思います。といいますのは、今治が海事クラスターであると。そこがそういうなら、神戸は全然負けないし、うまく考えれば海事クラスターをうたえるのではないかと。今、航空機産業のクラスターとか、医療産業都市などは聞くのですが、基本は港町で、港としての取り扱い量は減ったとはいえ、船員教育を含めた海事関係の産業が集積しているのは間違いのないのです。国の機関も引っ張ってきて、海事クラスターという切り口はないのかという点が一つです。

それから、もう一つは交通についてですが、昔、手塚治虫の漫画に出てくるまちの姿みたいなものがどんどん現実化しているように思います。まちなかを小型のパーソナルな公共交通機関が、非常に、フリケンシーもよく、自由に乗り降りできる、乗り合いタクシー

と小型バスの間みたいなものがよく出てきます。ですからぜひ、L R TやB R Tもいいですけど、どちらかと言えば、私は乗り降りが自由な、しかも、均一運賃で小回りがきく、そういった新しい都市内交通システムのアピールを、この際、思い切って、夢のある話として出せばいいのにとおもいます。要は、シティーループの小型版で、何も観光用だけではなくて、お年寄りが域内を回遊するのにも手軽に使える都市内交通システムというものをどこかのマネをするのではなくて、神戸オリジナルの公共交通機関として検討しましょう。こういうのも入れてもいいのではないかと考えています。

○会長

具体的に、海事クラスター、マリンビジネスクラスターのようなものをご提案いただき、また、次世代型の、実は、回遊の交通システムというのを神戸から提案してはどうかという、よりポジティブな積極的なご提案でしたので、事務局のほうでご検討いただきたいとおもいます。

ほかに、いかがでございましょうか。

○委員

この素案を見せていただきまして、おもしろかったのは、東遊園地が12ページにございまして、この写真の芝生が非常に青々として、東京のどこかの都心のような感じがするのですが、先週でしたか、パークマネジメントということで、社会実験をされたとおもいますが、そのときに、書籍を閲覧できるコーナーがございまして、広いところに、真ん中にぼつんと書籍が、十何冊ぐらいしかないようなところで、そのときもかんかん照りで、休みに来られている方がほとんど少なくて、これでは、素案に出ているような集客にはならないのではないかとおもいました。居住抑制とか居住に関することが出ていましたが、三宮南のほうではどんどんマンションが建ってしまっていて、子供連れの夫婦、親子が見受けられるようになりましたので、このように一面緑の芝生にさせていただきまして、できれば、ブランコや滑り台、ジャングルジムなど、ジェットコースターまでは言いませんけれども、そういう気軽に遊べるまちなかの一つの憩いの場をつくってもらいたいとおもいます。それを加えてもらいたいとおもいました。

○会長

ありがとうございます。

○委員

この将来ビジョンを見せていただきまして、私がこれに対して何を言えるのか、全然わからなかった。でも、皆さんの意見や、補足などをお聞きしまして、本当に勉強になりました。B E K O B Eという言葉について議論がありましたが、何よりも人がまちの主役ということになっており、本当に人だとおもいます。子供のときから、公共のものを大切にするような教育をしていかないといけないとおもいます。今朝の朝日新聞に、「折々のことば」というのがありまして、とても共感しましたので、切り抜いてきました。「公のもの、

皆のものであるから、これは私のもの以上に大切にしなければいけない」、というのが道義なのですが現実にはそのようになりにくいということを言っています。結局、公共のものだから、自分のものではありませんから、例えば歩道を自分の都合のいいように使ったり、器物を簡単に傷つけたり、ということがよく見受けられます。未来の神戸がそういうことにならないように、子供ころから公共のものは皆のものだから大切にしなければいけないと、“We love KOBE!”という気持ちを養う教育の場を充実していかなければならないと思います。

○会長

日本でよく言われる内と外で、内のものは大事にするけども、外に出た途端に使いつ放しという、何かそんなことかもしれません。ありがとうございました。

○委員

港町神戸なので、やはり港が、このままでいいのかという思いがもっとあります。港の件は、他の委員会で検討くださっているので、よろしくお願いします。

都心居住の部分で抑制という言葉を使ってらっしゃいますが、むしろ、都心居住というのは、都心居住ができるところを促進すべくインフラを整備していく地域が必要ではないかと思います。

ここで抑制という言葉を使うと、夢のある冊子が少し押さえ込んであるというような印象を受けました。

○会長

ありがとうございます。

○委員

一番最初のBE KOBEから次のページに書いてあることについて、これは、実際に都心のことを書いているはずですが、神戸市全体のことを言っても何ら困らない表現になっています。だから、これを都心に落とし込んだらどういう言い方になるのかをきちんと整理をしておかないといけないと思います。これは、神戸全体でも持ってこれるし、特に、この中で防災であったり、環境・エネルギーであったり、これは大上段に構えても全然、どこのまちへ持っていっても何ら問題がないという状態になりますので、もう少し都心という部分に近づけた表現に変えたほうがよりわかりやすくなるだろうと思います。

○会長

確かに、全体を通して神戸ということを中心に強調されていますが、ここについては神戸全体、あるいは抽象的な表現になっているのは確かです。なかなか難しいですが、事務局のほうで今のご指摘を受けてご検討ください。

○委員

三つの柱と八つの軸の関係性が、人間サイズから見たときに全く見えないと思います。すばらしいと思いますが、今までどおりかなと思います。表現が変わっただけで、一人の

人間がどのように神戸で暮らすのか、この暮らしをみんなが享受できるまちに住みましょ
う、このまちに来ましょなどという表現が見えない。だから、ポイントでここがすばら
しい、あそこがすばらしいと思いますが、ポイントから動くところが見えてこないから、
できればプロモーションビデオに落としたらどうなるのかというような視点がいるのでは
ないかと思いました。

○会長

プロモーションビデオはつくってほしいです。ありがとうございます。

○委員

本当によくできた冊子で感心しております。例えば、42ページ、集合バスターミナルは
すばらしいと思ひまして、これなら現実にこのままやればいいのではと思ひてしまひます。
それぐらいすばらしいです。例えば、40ページも、K I I T Oと税関の前がこういう感じ
だったら乗って行ってみたいなという感じもしますし、だから一点一点で見れば、あそこ
にはこれを、こういうふうにはめたらいい感じだなと。それをどこにどういう仕掛け
をしていくか。

例えば、JRの三ノ宮駅の東側、昔からの市場があります。ご多分に漏れず、最近さび
れてきています。市場が市場でないような感じで、細々と商売されている。斜陽になっ
ていますが、そういったところに、兵庫県、市の地場産業の野菜等を、これは16ページにあ
りますけれども、そういったファーマシーのマーケットを一大マーケットに入れかえるぐ
らいの開発をすれば、買いに行くと思ひます。

最近、神戸駅から元町の間を、ぶらぶら歩いて、勉強がてらチェックをしているので
すけれども、元町6丁目が、兵庫カフェを発端に、現地の野菜、淡路など、その辺の野菜を
売っているお店がだんだんふえてきています。家内と一緒によく買い物に出かけますが、
最近は口コミで広がっていて、例えば、レタスなど新鮮なものはすぐ売れてしまひます。
元町6丁目だけでもエリアマネジメントといいますか、それをうまく広げていけるように
6丁目の方々初め、元町の皆さん頑張っただければ、もっと人は行くと思ひます。だ
から、神戸全体として、どういうものを全国に発信して仕掛けていくのかいう、これからの
展望はとても大事だと思ひます。今は、さびれている市場でもよみがえってくるぐら
いの、そのことによって活気が出てくる地区になる可能性は多分に秘めていると思ひます。
だからこれは行政を初め民間も、大いに考えていくべきだと思ひます。

○会長

今のお話は16ページのこの写真で、事務局の方に伺うと、象徴的なあり方そういうのを、
イメージをつくってくださったみたいですが、貴重なご指摘ありがとうございます。

○委員

ハーバーランド、あるいは、メリケンパークも含めたウォーターフロントについては、

この冊子の中にいろいろと取り込んでいただいて、それはありがたいと思っています。12ページの東遊園地が芝生になったイメージ図を見て、ふと、1月17日のあの竹灯籠はどこへ行くのだろうと思いました。どこでできるようになるのだろうと思いました。全面芝生にしても、できるのかもしれませんが、ぜひ、都心の未来の姿から、あの竹灯籠がなくならないようにという気持ちがしました。

それと、同じ見開きの右下で、このパースを見た瞬間に、神戸駅の東の元町商店街とのつなぎの部分で何か考えていただいているのかと思ったのですが、三ノ宮とありましたので、がっかりしたのですが、新たなつながりの中に、ご意見も出ていましたけれど、三ノ宮東だけではなくて、神戸駅東のほうもぜひ入れていただければと思います。

冊子を拝見してまず1ページ開いて、刺激と物語の町という言葉があって、あなたが参加している町というのがあるのですが、次にBE KOB Eという言葉があって、何よりも人がまちの主演と、また三つの柱、八つの軸ということで、正直言わせて、言葉という意味では満腹です。もう少し、市民の耳なり、気持ちの中に入れていきやすいように、少し、おまとめいただくことは必要ではないかと思います。逆に言えば、それだけ、神戸のまちなり、あるいは、未来の姿に対する、いろんな皆さん方の気持ち、思いが詰まったから、こういうことだとは思いますが、言葉的には満腹という感想です。

○会長

ありがとうございます。

○委員

24ページの観光のところで、夜景は出ていますが、神戸にはほかにもたくさんいいところがあるので、神戸のよさがこうだというのがあまり入っていないと思いました。

もともと光を見るということから観光という言葉はきていると思いますが、神戸の光はなんだと、夜景という意味ではなくて、そういうことが個々にちりばめてあるともう少しインパクトがあると思います。

もう一つ、先ほど、長崎の話が出ていましたけれども、長崎で、長崎さるくという市民の方が案内して町歩きをやるというイベントを、今でも継続してやられていると思います。けれども、そういった、市民が主演となったような観光案内とか、もし、やっておられるのなら、そういうことも取り上げたりとか、北野かいわいですとか旧居留地とか、歩いてこそ、楽しめる観光地、観光地だけではないですけども、そういったことがわかるようなイメージにすると、もっと神戸が、観光都市だということが出てくるのではないかと思います。市民の方も、そういったことを意識していただければいいかと思っています。

○会長

ありがとうございます。

○委員

神戸の要素といえば、食の文化は、スイーツやパン、あるいは、ビーフ、ワインです。

こういったものをもう少し、例えば、気さくに食しているような表現を、この中にちりばめることができれば、パブコメをいただくときに、非常にイメージもしやすいのではないかと思いました。

○会長

ありがとうございます。

○委員

42のゾーン料金制のところにつきましては、もし、実施されるのであれば、交通事業者のそれぞれの意見を聞いていただいて、うまく調整していただければと思います。

また、個人的に言いますと、このパンフレットの中で、非常にたくさん、いろんな場所で憩える場所、座れる場所を、まち歩きをしながら、いろんところで風景を楽しみながら、憩いの場所がたくさんページに出てきますので、そういうまちづくりにしていただけたらと思いました。

○会長

ありがとうございます。

○委員

これが全部できたらすばらしいと思いました。神戸は非常にぜいたくなところだと思います。食べるものも、見るところもいっぱいありますし、それを全部こういう形で掲げてパブコメをして、市民の方がどういうふうに感じられるかという、一人の方がこれを全部消化しようと思うと、消化し切れないぐらいのぜいたくなメニューがそろってると思います。

ただ、そういう意味で都心を活性化するためにいろんなPRをする、全部つなぎ合わせることは確かに無理があると思うので、個々のターゲット向けに、整理して、聞いていくときにやはりそういうところの観点も要ると思います。全部堪能してしまうと、消化し切れないぐらいのすばらしいメニューがたくさんあると思います。そこら辺をうまく市民の皆様聞いていただければいいと思います。

○委員

先ほどお話がありましたように、JRの東口の改札と、42ページのバスターミナルは同時期に実施されるものと胸をなでおろしておりますけれども、そのあたりの調整もよろしくお願ひしたいと思います。

それと、午前中の会議も公共交通を優先するというお話が出ておまして、トランジットモールの話もありました。ただ、幹線をトランジットモール化するのは、かなり無理があると思いますので、部分的にもトランジットモール化をしていただきたいと思います。おまして、例えば、ミントの東側の中央幹線からJRへ入っていく道、これがかなり渋滞しております。また、バスが出るのにも、信号でかなりの歩行者がおられて、2台か3台ぐらいのレベルでしか出ておりませんので、公共車両を優先といいますか、一般車両を排除

していただきたいと思っております。それと、トランジットモールは無理でも、バスの専用レーンをつくっていただきますと、バスの定時性につながりまして、公共交通の利用の促進になると思っておりますので、そちらもお願いしたいと思えます。

それと、42ページの右下の新しいターミナル図ですが、当然のことながら、高齢者の方も多数おられますので、できましたらベンチの配置もご検討いただきたいと思っております。

○会長

あくまでもイメージ図です。ありがとうございました。

○オブザーバー

いろいろと皆さんの意見を踏まえて、まとめていただいてここまで来ていると思えますので、いかに、これからこれを具体化していくかというのが重要になってこようかと思えます。そういった点で、これから、神戸市さんも頑張っていくのかなと思えますので、よろしくお願いしたいと思えます。

○会長

ありがとうございます。

○オブザーバー

私も見せていただきまして、イメージ的にはいい冊子だと思いますが、あくまでイメージなので、これから、これを具体的にどういうふうやっていくかという姿がまだ見えてこないで、午前中の会議の基本構想とも合わせて考えていかないといけないと思えます。

○会長

ありがとうございます。

○オブザーバー

警察としましては、イメージではなかなかお話ができないので、具体的な事業計画ができましたら、道路管理者、交通事業者の方と個々具体的に協議を進めて、実現に向けて進んでいきたいと思っております。

○会長

ありがとうございます。

○委員

観光と文化一緒にしてほしくないと思えます。分けてください。

○会長

このあたり、強いご指摘ですので、事務局のほうで検討していただくということをお願いしたいと思えます。

そろそろ終了ですけれども、これだけは発言しておこうということがございましたら、お願いします。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。そうしましたら、今日いただきました議論を今回の原案に、事

務局のほうで取り込みながら配置修正ということになろうかと思えますけれども、きょうはご議論ありがとうございました。

それでは、事務局のほうにお返ししたいと思います。

4. 閉会

○三島都心三宮再整備担当部長

加藤会長、委員の皆様、大変活発かつ大変貴重なご意見ありがとうございました。

神戸市といたしましては、本日いただきましたご意見を踏まえまして、先ほど、会長からもありましたように、パブリックコメント（案）のほうに修正して作成させていただきたいと思っています。その後、パブリックコメントに諮って、市民の皆様のご意見をいただきたいと思っております。

また、本日、言い足りなかった点や、発言できなかった委員におかれましては、将来ビジョンに関するご意見をお受けしたいと思いますので、事前に配付させていただいております指定の様式に記入していただいて、ファクスで送付いただくか、記載のアドレスまでEメールするなど、事務局までお届けいただけたらと思っております。また、今後パブリックコメントの手続に入る予定がございますので、その意見につきましては、6月中にご意見をいただければと思っております。よろしく願いいたします。

それであと、本日いただいたご意見、それからまた後ほどいただくご意見を賜りまして、修正を図ってまいります。その後、最終的なパブリックコメントの案につきましては、加藤会長とご相談させていただいて、最終の案をいただきたいという形で進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでございましょうか。

それでは、そういう形で進めさせていただきます。

加藤会長、よろしく願いいたします。

次回の開催ですが、パブリックコメントの手続が終了いたしまして、神戸の都心の未来の姿「将来ビジョン」が固まった段階で皆さんに報告するという形で開催させていただけたらと思っております。

また、報告会の開催につきましては、三宮構想会議で合同で開催することを考えております。日程については、また、後ほど、ご連絡させていただきたいと思えます。

それでは最後に、住宅都市局長の山崎より、一言ご挨拶させていただきます。

○山崎住宅都市局長

住宅都市局長、山崎でございます。委員の皆様におかれましては、本当にお忙しい中、お集まりをいただきましてありがとうございます。それから、本日も含めまして、5回にわたりまして、熱心にご議論をいただき、貴重なご意見をいただいたというふうに思っております。会議の中でもいろいろご意見をいただいた中で、やはり、市民の方に神戸は

こんなに素晴らしい町になるんだということが実感していただけるような、そういうものにしていくべきだと、こういうご意見をいただきました。我々としても、そういうものになるように、これからまた修正を重ねて成案を取りまとめていきたいというふうに思っております。今後ともよろしくご指導のほど、お願いを申し上げます、簡単ではございますが、最後の挨拶というふうにさせていただきます。どうも、ありがとうございました。

○三島都心三宮再整備担当部長

それでは、これもちまして、本日の会議は終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。